

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年7月15日（水）No.16
文責：情野 夏美

置賜管内教科担任マイスター ICT研修会 in 塩井小

R7年度リーディングDX事業における、県内唯一の認定校であった、塩井小学校のICT研修会に参加してきました。全学年の授業公開と山梨大学 教育学部 准教授 三井一希氏の講話を聞いてきました。大変学びが多い研修会でした。ご一読ください。

【授業参観】※すべての学年を少しずつ観てきました。★はICTの活用です。

1年生 国語「大きくなった」

- ・今まで観察してきたあさがおの観察カードを見て、観察する視点を確認する。

- ★タブレットで写真を撮る。

- 余計な操作をする子が少なく、タブレットの使い方やメリハリの指導がしっかりされていると感じました。

- ・撮った写真を見て、観察カードをかく。

2年生 音楽「ぷっかりくじら」

- ★スプレッドシートでふり返り

- 文字を入力する児童もいましたが、入力できない児童のために、できた、まあまあできた、あまりできなかった、できなかった の4つから選択できるようになっていました。

3年生 国語「仕事のくふう、見つけたよ」

- ★組み立てたメモを見て、報告書を作成する。（先生が用意した？テンプレートに入力する）

- ★作成の途中で全体共有を行い、児童の作成したものを電子黒板に映し、改善点を確認する。

- いいところを出し合って、自分の報告書に生かせるようにしていました。

4年生 国語「新聞を作ろう」

- ★本時の学習課題を確認した後に、スプレッドシートに自分のめあて（だれと、どこで、どのように）を入力する。

- 先生は児童が立てためあてに対してすかさず突っ込む。「～ってどういうこと？」自分で立てためあてに対して、問うことで具体化させていた。

- ★フィグジャム（共同編集できるもの）で、班ごとに事前に取ったアンケートを分析する。

- 先生は、個に刺さり支援を行う。させっぱなしにさせない。

5年生 国語「目的に応じて引用するとき」

- ★本時の学習課題を確認した後に、スプレッドシートに自分のめあて（だれと、どこで、どのように）を入力する。

- ★フィグジャム（共同編集できるもの）で、目的に応じた引用を行う。

- 引用する際に、ただコピペしないように、PDFの資料を使用していました。細やかな配慮がありました。

- 教科書の大事なところを読ませたり、ノートに書かせたりと、デジタルとアナログを使い分けていました。

6年生 社会「天皇中心の国づくり」

★大仏づくりについて、各々の好きな方法でまとめる。タブレットでまとめる子もいれば、紙にまとめている子もいる。

→時間内に、好きな場所、好きな人と自由に学習を行っていました。黙々と学習に向かう姿は、目指したい姿だなと感じました。

わかくさ 生活単元「植物を育てよう」

★タブレット操作をする。

→一対一の丁寧な指導でした。

【マイスター協議】

- ・スプレッドシートは低・中・高学年で型がある。学校全体で使っている。ふり返りでは、文字数をカウントし、100字を超えるとセルが黄色くなる。質を上げるには、量を書くことが大事とのことでした。
- どの教科、どの単元で行っているのではなく、自分のできるところから挑戦しようというスタンスだそうです。
- ・フィグジャムには、タイマー機能があり、どこにいても時間が分かるようになっている。
- ・生成 AI を使って教材研究を行っている。負担軽減につながる。

【講話「考動力を発揮し、自ら学びをデザインする児童を育成する授業とは」】

※特に学んだ点を載せています。後程、講話のスライドを回覧します。

- ・①「各教科等において重要とされる中核的な知識・技能、見方・考え方を身につけさせる学び」と②「自分の学び方を俯瞰し、自分らしく学ぶスキルや態度を身につけさせる学び」の比率はどうか。①が多い。②をどう行っていくかが重要となってくる。
- ・直接的教授法であってはいけない。指示されるがままに動く。ちょっとでも状況が変わると動けなくなる。生産的失敗法だと長期的な学習効果を高めるアプローチにつながる。
- ・自走するために必要な情報を与える。まずはここから・・・課題、評価・ポイント・時間・学習の流れ。
- ・様々な学びを経験させ、自分で決めさせる。
- ・教師は、制御を少なくし、支援やフィードバックを多めに行うサポート型の支援を行う存在でありたい。

【研修会を通して大切だと感じたこと】

- ・単元を通した教材研究→スプレッドシートを作るにしても、単元全体の見通しを持たないと作ることができないと感じた。ただ、すべての教科、全単元で行うのは大変なので、できる単元、教科から始める。
- ・基礎となるタイピング練習はもちろんのこと、どんどん使ってみる。
- ・教科書の内容を正確に読み取り、使いこなせるように指導する。

文部科学省リーディング DX スクール

<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

“リーディング DX スクール” は、GIGA 端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開するための事業。（公式 HP より）

